

岩手・宮城内陸地震

復旧対策実施中

国有林被害は約六百億円

六月十四日午前八時四十三分頃岩手県内陸南部を震源とするマグニチュード七・二の地震があり、岩手県奥州市と宮城県栗原市で震度六強を記録、死者十二名行方不明者十名、負傷者は四百二十二名（二十七日現在）となりました。

林野関係被害も甚大で、岩手県一関市・奥州市、宮城県栗原市を中心として、大規模な山腹崩壊や土石流が発生、各地で道路が寸断されました。

国有林への被害と応急復旧対策

主な国有林の被害は山腹崩壊や地すべり等の林地荒廃が百八十六箇所、五百七十八億、林道の被害が二百二箇所、十八億など、併せて五百九十九億（七月四日現在）の被害額となりました。

東北森林管理局では、発生直後に災害対策本部を設置し、対応を開始するとともに、被害の大きか

つた岩手南部、宮城北部、湯沢支署においても林道の崩土除去など速やかな応急復旧対策を進めてき



荒砥沢ダム上流での大規模な地すべり被害（宮城県栗原市）



多くの登山者で賑わう栗駒山山頂付近でも山腹が崩壊

ました。

また、学識経験者による現地調査を岩手県・宮城県・林野庁と合同で実施し、復旧対策を検討するほか、岩手県一関市の磐井川流域、宮城県栗原市荒砥沢ダム上流及び花山湖上流の国有林野等において災害関連緊急事業に着手しました。（地震被害と対策実施箇所については左図参照）

国有林林道を迂回路として供用

応急対策としては、地震による被害のため不通となった国道・県道の迂回路として国有林林道を早急に復旧させ、岩手県一関市祭時地区及び宮城県大崎市岩入地区の集落の孤立化の解消や、資材運搬

路の確保を図りました。今後も早期の復旧に向け対策を進めて参ります。

なお、東北森林管理局における岩手・宮城内陸地震への対応状況については、局ホームページで随時掲載しておりますので是非、ご覧下さい。

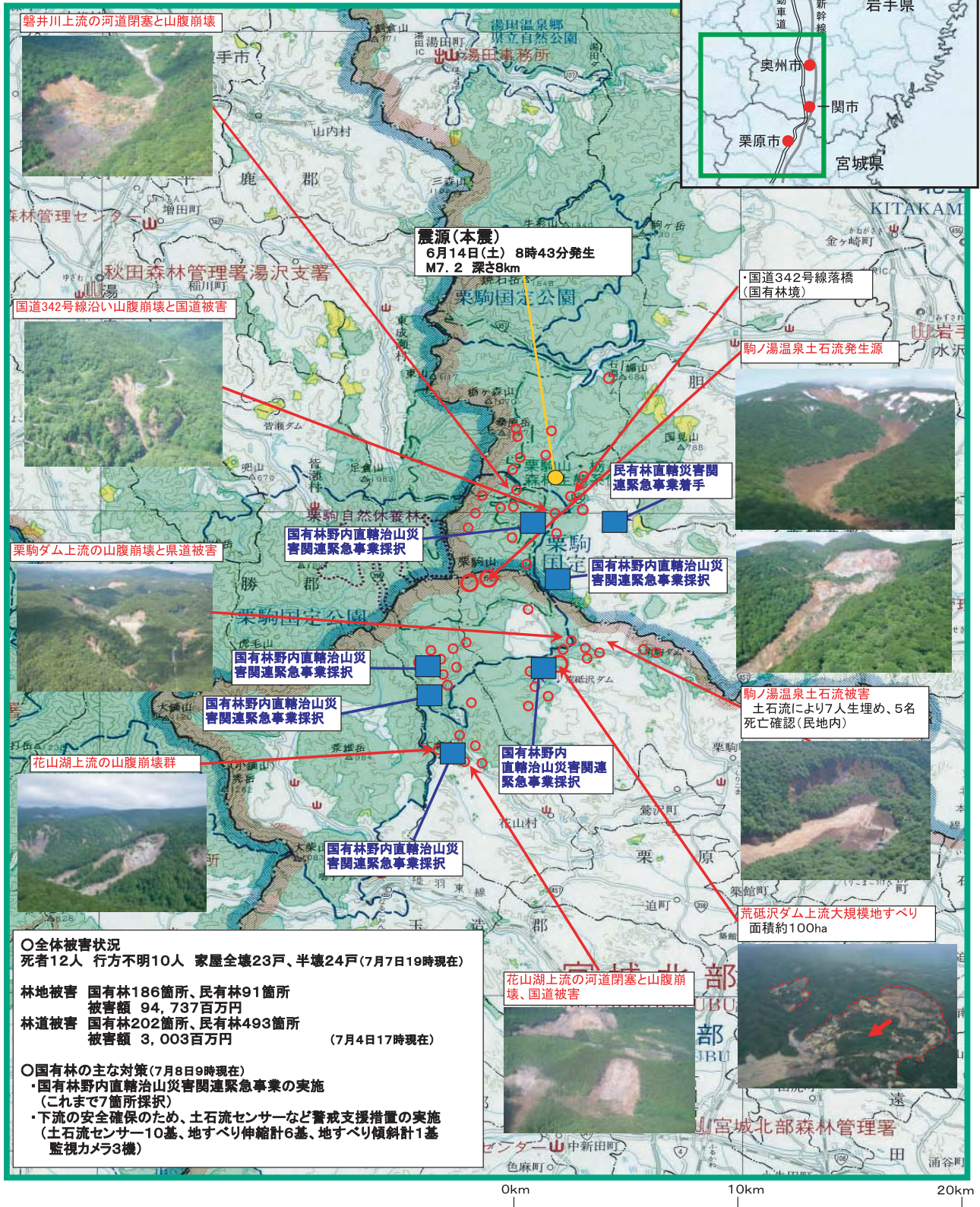
東北森林管理局ホームページ
<http://www.tohoku.kokuyurin.go.jp/>



市野乃原地区民直事業地の緊急対策用仮設道（写真右）と国有林林道を供用した迂回路を確保（写真上）（岩手県一関市）

岩手・宮城内陸地震国有林関係状況

災害概況図 平成20年7月8日現在



東北森林管理局

特集コーナー

第59回 全国植樹祭

北秋田市・北欧の森公園



天皇・皇后両陛下をお迎えし、六月十五日（日）第五十九回全国植樹祭が北秋田市の「県立北欧の森公園」において「手をつなごう森と水と私たち」をテーマに開催されました。会場は、県内外招待者等およそ一万二千人が集い盛会でした。

式典では、天皇陛下からのお言葉の冒頭、前日発生した岩手・宮城内陸地震の被災者に対してお見舞いを述べられました。

また、皇后陛下も白と黒を基調としたシンプルな服装で被災者の方々へのご配慮を感じました。

式典会場の設計は、世界的建築家の安藤忠雄氏によるもので、林立する秋田スギを背景としてお野立所を中心に鶴が両翼を拡げ舞い降りた様子をイメージ。地元秋田県産スギ材をふんだんに使用したものでした。

プロローグでは、秋田県出身著名人によるトークがあり、脚本家の内館牧子さん、作家の西木正明さん、元国連事務次長の明石康さんが参加。それぞれの方の自然・森林そして故郷秋田に寄せる思いが語られました。

イベント広場の当局ブースでは、パネル展示・パンフ配布・森のクイズ等を行い、国有林をPR。来客者対応の指導普及課職員等は、様々な質問に丁寧に対応していました。

また、森林クイズ回答者にプレゼントした上小阿仁国有林産天然秋田杉のストラップは大人気でした。



県内外から集まった1万2千人の参加者



天皇后両陛下によるお手植え



来賓として出席していた井出林野庁長官は、全国植樹祭も無事終了した後、タイトなスケジュールの中、来局。待機中の河野局長等幹部職員を前に、今回の地震について、国有林として迅速な対応をするよう指示。明暗入り交じる一日でした。



前日の地震についての対応を指示する井出長官



クイズ回答者にプレゼントされた天然秋田スギストラップ



賑わった局のブース

バイオマスタウン構想と もったいない条例制定のまち

青森県北津軽郡 中泊町企画調整課

青森県中泊町は、二〇〇五年（平成十七年）三月二十八日、旧中里町と旧小泊村が合併し、誕生した飛び地の町である。農林水産業が盛んで、大地の恵みと海の幸、心一つに希望の町をスローガに掲げ、町民の一体感の醸成を図るために各種施策を展開している。

もったいない町民運動による循環型まちづくり条例（通称もったいない条例）の制定
この条例は、町、町民、及び事業者が協同してまちづくりに取り

組み、自然豊かで活力ある中泊町を形成し、次の世代に引き継ぐことを目的とする。

当町は、「健全な自然環境が保全され、健康で快適な暮らしのできる持続可能な町の実現」「資源やエネルギーの消費抑制、ゴミの3R運動の推進などで適正な資源循環を確保する町の実現」「もったいない町民運動により、環境問題の解決に向けて町民一人ひとりが自ら考え、実践していく町の実現」の三つを基本理念に掲げ、循環型まちづくりを実施し、普及啓発・意見聴取を行っている。

バイオマスタウン構想の策定

バイオマスを活用した取組を確実に進めていくために策定したもので、情報共有とバイオマスの利活用における意識と理解を高め町民や関係者の合意の下で、実現を図ることとしている。

もったいない条例を民間でも実践
町の面積の67%を森林が占める



特許申請中の炭入り木質ペレット。通常のものに比べ燃焼効率も高い。

当町では、現在、津軽開発協同組合（代表竹内忠義）が、未利用バイオマスである林産資源（林地残材）などを有効活用し、木質ペレットを製造している。また木質ペレットの燃焼効率を向上させるため、炭入りの木質ペレットを開発し、特許申請中である。

ペレットストーブ・ボイラーの導入

現在、町では、役場庁舎副町長室にペレットストーブを、特別養



この春操業を開始したペレット工場



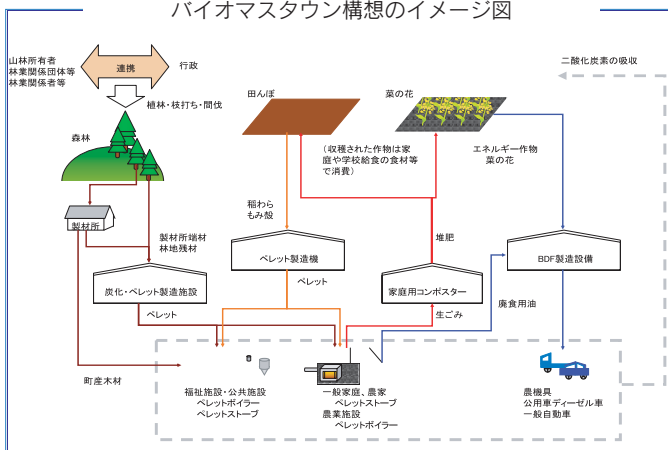
静和園で稼働しているペレットボイラー

護老人ホーム静和園では、ペレットボイラー導入し、バイオマスエネルギーの利用に努めている。

今後のバイオマスの利活用推進

稲作が盛んな当町においては、今後、稲わら、もみ殻の有効活用、生ゴミの堆肥化、廃食用油のBDF燃料利用、転作田を利用した資源作物の栽培などを実践するため、農・漁協、住民代表や学識経験者、民間企業で組織する、「バイオマス地域協議会」を新たに設置し、定期的に進捗状況や課題等についての話し合いを行ない、バイオマスタウンの実現を図る。

バイオマスタウン構想のイメージ図



東北森林管理局

1階ロビーのご案内(7月)

・ミニギャラリー

現代書 展

秋田市 鎌田一巳

・PRコーナー

白神山地世界遺産地域のブナ林

計 画 課

新任者略歴紹介(7月4日付)

東北森林管理局次長 (青森事務所長)

こばやし ただあき
小林 忠秋 (北海道)



- 55・4 農林水産省入省
- 63・4 北見支局遠軽署長
- 15・4 山梨県森林環境部林務長
- 18・8 林野庁木材産業課長

樹水で有名な蔵王連峰は、その多くが国有林です。多様な植生に恵まれ、ブナやアオモリトドマツをはじめ、ガンコウラン、ミヤマハンノキ、ハイマツなどの樹林のほか、コマクサ、イワカガミなどの高山植物群落もみられます。山頂へのアクセスは、



高山植物の代表種でもあるコマクサ

セスルートも整備され、毎年多くの観光客が訪れます。こうした貴重な森林生態系を保全するため、山形森林管理署では職員による巡視のほかに、県や市、警察等の関係機関、森林ボランティア団体等と連携した合同パトロールや利用マナーの呼びかけ、清掃などを従来から実施してきています。また、山中にある施設に泊まっつての早朝パトロールも実施しています。こうした取組みの結果、ゴミの散らかしはほとんど見られなくなりました。しかし、残念ですが一部には高山植物を掘り起こした跡がまだまだ見受けられます。



グリーンサポートスタッフによる巡視も加え貴重な自然を保全していきます



蔵王の森林生態系の保全を目指して

山形森林管理署



合同パトロールの実施により森林生態系を保全(いろは沼より熊野岳)

このため、昨年度からはグリーンサポートスタッフ(臨時職員)による巡視を始めました。一般から募集した四名を二班に分け、それぞれ巡視区域を決めて利用マナーの呼びかけや荒廃箇所調査などを六月から十月まで行っています。グリーンサポートスタッフによる巡視は、休日を主体に行っていますので、職員による平日の巡視を補完できる利点もあります。こうしたさまざまな取組みを通じて、蔵王の貴重な自然を次世代に引き継いでいきたいと考えています。

【森のお話】

…コラム…

高山植物に忍び寄る影

シカ分布拡大の脅威

森林総合研究所東北支所生物多様性研究グループ 堀野 眞一

東北地方には高山植物の美しい山がたくさんあります。それほど高くない山野にも花が豊富です。永く残していきたい自然の財産です。しかし、今これに対してシカの脅威が忍び寄っています。

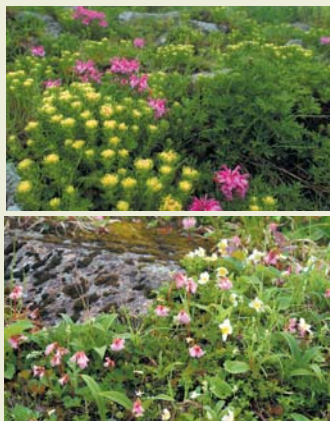
岩手県では昔から県南東部の五葉山一带（写真―1）がシカ生地として知られていました。このシカが県央東部を越えて県北へ広がっているのです。シカが進出した地域には高山植物の咲く山々が含まれます。その代表格、早池峰山は全国でも指折りの花の山であり、学術的にも地域文化の源泉としても計り知れない価値を持っています（写真―2、3）。もしこの山にシカが侵入して高山植物を食べ散らかすようなことになれば悲劇的な損害が生じます。でも、そんなことが実際あるのでしょうか。あるのです。東北以外ではいくつもの山でシカのため高山植物に回復困難な影響が出ています。南ア



写真―1 空から見た五葉山。

ルプス聖岳のニッコウキスゲ、日光白根山（写真―4、5）のシラネアオイ、尾瀬の湿原植物群落など…同じことを東北で繰り返してよいのでしょうか。早急に対応策を考える必要があります。

さらに、遠い将来にはシカが奥羽山地や日本海側の県へ侵入することもないとは限りません。いや、北上山地ならいざ知らず、雪の深い地域でシカは生息できないので



写真―2、3 早池峰山の高山植物。

は、と考える方もおられるでしょう。たしかに、雪がシカの侵入を防いでくれるなら好都合です。しかし、残念ながらそれはあまり期待できないようなのです。尾瀬にシカが生息するようになったことから、かなり雪深いところへも進出できると考えたほうがよさそうです。歴史をひもとくと、今はシカのいない男鹿半島や蔵王山麓にかつてシカが多数いて、十七、十八世紀には巻狩り一回で数千頭も捕ったという記録が残っています。雪の深い地方でも局所的には積雪の浅いところがあり、シカはそういうところで越冬できるのでしよう。

知らないうちに東北の山々でシカの喰い跡が目立ち、高山植物が消えていく、というのが最悪のシナリオです。そんなことが起きないよう、関係者が力を合わせてシカ監視網を作り、東北の高山へのシカ侵入を防がなければなりません。今なら間に合うのです。



写真―4 日光白根山で高山植物を食べるシカ。



写真―5 草本だけでなく樹木にも影響が出ます。日光白根山のシラビソ林では剥皮が目立ちます。



総務課

優秀賞を受賞

第四十二回林業関係広報コンクール

（社）全国林業改良普及協会が主催する第四十二回林業関係広報コンクールにおいて、広報誌部門で当局が発行している広報紙「みどりの東北」とホームページ部門で藤里森林センターがそれぞれ優秀賞を受賞し、五月二十八日東京の三会堂ビルで行われた総会内での授賞式に出席しました。

このコンクールは、全国の林業関係組織の広報活動の向上を通じて森林の整備、林業の振興に寄与するため、各種広報作品について表彰を行っているもので、都道府県、市町村、森林組合などの林



授賞式会場での記念写真（東海林広報主任官（写真右）と鈴木技官）

業・木材産業団体、林研グループ、NPO等から、広報誌部門が二十九点、ホームページ部門が二十点の中から最優秀賞に続く優秀賞を受賞したものであります。

広報誌部門では、表紙及び隠れた名所、民有林情報等の掲載が、藤里森林センターのホームページは手作りならではの親近感、ブナの森へようこそなどが審査員に高い評価を得られ、森林管理局では東北のみの受賞となりました。

局広報紙においては、平成十九年度より美しい森林づくり推進国民運動の普及のため、紙面に特集を設け、民有林・国有林一体となった取り組みを紹介することに、各森林管理署等の事例に併せ、管内五県及び林業事業体等の取り組みを紹介、更には市町村での地元の特徴を活かした取り組みも掲載しております。

この受賞は業務多忙中、記事をいただいた県・市町村・林業事

業体・各森林管理（支）署等の協力がなければ得られなかった事であり、改めて感謝を申し上げる次第であります。

今後も「美しい森林づくり推進国民運動」の推進のため、林野行政及び国有林野事業を国民の皆様積極的に情報を発信していきたいと思っておりますのでご協力をお願いいたします。

青森森林管理署

ボランティアで

休憩施設等を整備！

眺望山自然休養林のアメニティ向上を図り、森林とのふれあいの場の提供を進めるため、六月十三日と十七日の両日、ボランティアによるテーブル・ベンチの設置、ウッドチップの広場作り、バリアフリー遊歩道の整備を実施しました。協力いただいたのは、（社）青森林業土木協会の会員、三陸森の会、森林ボランティア青森の総勢七十八名。

初日は、整備する箇所的位置決め、柀木の取り付け、砂利敷などの事前準備作業。この日は、今にも本降りになりそうな空模様で予定の作業ができるかどうか心配しましたが、青森林業土木協会の方々が主体となり、十七日の本番



ボランティアの協力により休憩施設を設置

に間に合うよう汗だくとなって作業していただきました。

そして、いよいよ本番！天候にも恵まれ、署長の挨拶後、ベンチ・テーブルの設置箇所とウッドチップによる広場作り箇所に分かれての作業。

ベンチ・テーブルは、組立図面と照らし合わせながらボルト、アンカー打ちをして無事水平に設置。バリアフリー遊歩道の作設では、ヘラ等を用い地面に這いつくばるようにして敷均し、消火ポンプにより撒水。ウッドチップによる広場作り箇所では、一トンの重量がある袋に入っていたウッドチップをスコップで小分けに掻き出しながら敷均しました。

作業途中、遊歩道作設の材料が足りなくなったり、当初計画していなかった県道からの取付道も整備した方が良いのではとの前向きな意見が出されるなど、不測の事態（？）もありましたが、参加者の慣れた手順のもとに予定してい

た作業を全て無事終了することができました。

ボランティアによる整備は、昨年引き続き行いましたが、今年度も来訪者の方々の要望なども伺いながら、休養林の施設整備・活用促進に取り組んでいきたいと考えています。

ご協力いただいた方々には、誠にありがとうございました。

三八上北森林管理署

美しい森林(もり)づくりに向けて “森林(もり)の恵みの 環境祭”を開催

五月二十五日(日)、「守ろう地球、創ろう共生社会」をテーマに当署庁舎構内において、森林からの贈り物である木材や山の幸山菜、木工体験、ブナ巨木等見学会、木材チェーンソーアートなど森林からの恵みを身近に感じていただくとともに、地域の企業・団体の環境に優しい取組を展示・紹介し、より一層の美しい森林づくりへの理解を地域住民に深めてもらうことを目的に、上北森林組合、上三地区森林組合、おいらせ知の会、青い森カービングクラブの四団体の共催、上北地域県民局地域農林水産部、十和田市役所の後援・協力により開催しました。

当日は、庁舎構内のイベントとして、●アートの森(絵画(田村まさよし氏作)・写真・木材チェーンソーアート)、●スタンプラリ体験(輪切りチャレンジ、樹種当てクイズなど)●木工体験教室(竹とんぼ製作など)、●林産材販売(テーブル原材、丸太イス、まな板など)、●ペレットストーブ等販売、●山菜の販売などを各団体が提供し、木工品や山菜などを求め、また、チェーンソーアート実演、木の輪切り体験などの体験コーナーに多数の家族連れの方々が訪れて祭りを楽しみました。

また、一般参加者募集によるブナ巨木等の見学会には、あいにくの雨模様であったものの応募された四十名全員が参加し、十和田市奥瀬字幌内山国有林内にあるブナ巨木を見学。幹回り約六m、樹齢推定約四百年のブナ巨木を身近にした参加者は、巨木の迫力に圧倒された様子で無言のまま見入っている方や樹皮に手を触れる方、家族で記念撮影される方など巨木から発する自然の奥深さ、雄大さを満喫している様子でした。

今回の祭りは、美しい森林づく



ブナ巨木前で記念写真撮影

りへの理解を地域住民に深めてもらうことを目的に開催したものですが、当署では「ふれあい祭り」と題して平成十六年度以前は旧庁舎構内において、地域住民とふれあう機会を提供しながら国有林野事業の情報を発信してきたところであり、平成十九年二月に新庁舎が完成して初めての開催となりました。

当署では、開かれた「国民の森林」にふさわしい管理経営の推進に資することを目的に、むつ市在住の四名の方々にモニターの依頼をし、六月十一日にその依頼式及び当署の取り組み内容等について説明を行いました。

これは「何も知らなかった国有林をやっと理解し始めたら一年という期間が過ぎてしまい、残念に思う。もっと国有林のことを知りたい。」等の国有林モニターの声に応えたものです。

依頼をした方々は昨年度の国有林モニターの方と今年度の国有林モニターの方で、依頼期間は国有林モニターの年を初年度として三年間とし、下北地域で毎年国有林モニターが二名と仮定すると、来年度以降は常に六名の方が当署のモニターということになります。

モニターを対象とした行事は、署主催の行事の案内は勿論のこと、事業説明を含めた署長との意見交換、事業を理解していただくための国有林の視察を年四回計画しているところです。

地域の皆様の理解の促進を図ると共に、モニターの方々の貴重な



樹木当てクイズ(写真上)と小型林業機械実演の模様(写真左)



下北森林管理署

下北森林管理署 モニター誕生!

モニター誕生!



支署長（写真中央）と
関係者4名との写真

意見や要望をこれからの管理経営に役立てていきたいと考えています。

上小阿仁支署

平成二十年度上小阿仁村全村植樹祭開催

五月二十六日、上小阿仁村・大館北秋田森林組合・上小阿仁木材産業連合会及び当支署が主催する、「全村植樹祭」を上大内沢国有林内山村広場で開催しました。

支署長代理で挨拶した総務課長は、植樹祭会場に隣接する上大内沢自然観察教育林はこれまで地元をはじめ多くの方々に活用されていること。五月十三、十四日にかけて発生した山火事消火に対するお礼と山火事防止のための注意事項の説明。さらには、温暖化防止をはじめ森林の持つ多様な機能を発揮させるため、森林整備に努

めていること。森林整備のための間伐箇所の利用可能な間伐材を生産し、国産材の安定供給に努めていること。等について話し、国有林野事業への理解を深めました。

会場は樹齢二百五十年生の天然秋田杉や「森の巨人たち百選」に選ばれた「コブ杉」がある自然観察教育林に隣接する山村広場で、上小阿仁中学校の一年生二十五名をはじめ、参加者約百名が地域緑化の思いを高めながらサトウカエデの植樹に汗を流しました。

植栽後、中学生を対象に当署職員による「森林環境教室」を行い、地球温暖化防止など森林の持つ多様な機能と役割等をPRしました。生徒からは「杉の枝打はいつやるのか」などの質問が出されました。

支署としては、今後も市町村等と連携しながら各種イベントを開催し、国有林野事業のPRに努めていきたいと考えています。



植樹に汗を流す参加者



森林教室には「森っち」も参加

米代西部森林管理署

「風の松原」での 署の取り組みを紹介

五月二十三日（金）、能代市「風の松原」において、市民ボランティア団体「風の松原に守られる人々の会」主催の自然観察会が行われました。

この団体は、「風の松原」をフィールドに、小学生から一般の方まで幅広い方々を対象にガイドを行ったり、クロマツの林を守ろうとニセアカシアの芽掻きを行うなど、様々な活動を行っています。

今回、会の代表から、自然観察会の前段に、松原に関する講話を署長にお願いできないか、との依頼があり、「生活環境保全林整備事業」による森林整備や施設整備について、また、国・県・市・ボランティア団体など地域一体となった松食い虫被害対策の取り組みについてスライドを使って説明を行いました。

今年度は「日本海中部地震」から二十五年目の節目の年でもあり、松原が津波の被害を軽減したという事にもふれ、防災機能を果たす松原を再認識する良いきっかけとなりました。

三十名ほどの参加者は、市の施設「サンウッド能代」で署長の講



スライドを使った署長の講話

話を聞いた後、四班に分かれて松原に移動し、ガイド役の会員から植物や日和山周辺の史跡について説明を受けながらゆつくりとしたペースで林内の散策を楽しんでいました。

当日は報道機関三社が取材に訪れ、講話や自然観察会の様子をカメラにおさめたり熱心にメモを取ったりしていました。

この講話を通じて、参加者の方に署の取り組みが紹介が出来ること、また、新聞等を通じて広くPR出来ることは良い機会であったと思っております。

由利森林管理署

自然休養林の新緑を散策

【新緑の鳥海自然休養林森林浴ツアー】

六月四日、鳥海自然休養林内において、森林ふれあい推進事業の一環としての「新緑の森林浴ツアー」を実施しました。

毎年春と秋に行われているもので、由利本荘市をはじめ秋田市や大仙市、湯沢市などから二十四名の申し込みがあり、回を重ねるごとに人気が高く主催者一同喜んでる次第です。

当日は初夏を思わせるツアー日和となり、市原署長から由利署管内の紹介と国有林のPRを含めた歓迎の挨拶がありました。その後中島台レクリエーションの森、通称「獅子ヶ鼻湿原」を散策、周辺にはマイツルソウ、ツクバネソウ・チゴユリ、ナルコユリ、ツクバネウツギなどが咲き乱れ、参加者の感動を呼んでいました。

また、世界でも貴重なコケの群落「鳥海マリモ」や湧水池は、さながら自然庭園の様相を呈しており、しばしば疲れた体を癒してくれました。

昼食後、鳥海山五合目の竜ヶ原湿原に移動、周辺にはまだ残雪があり、マンサクの花や可憐なミネザクラが参加者を迎え、初夏と冬が同居していることに満足した様子でした。

最後にブナ二次林の試験地を見学、ブナの生育についての各種試験地・研究について理解を深めました。

参加者からは「秋の森林浴ツアー」を心待ちにしているなど大変満足した様子でした。帰路は心地よい汗の感触を確か

めながら、全員が無事故で森林浴ツアーの一日を無事終了しました。当ツアー終了後、参加者の方々からお礼のお便りやお電話を頂戴しましたが、この中から、代表して遠路倉敷市より参加いただきました近江様のお礼状を紹介させていただきます。

存じます。参加させていただきます。6月4日、倉敷市より故郷秋田へ帰郷の折、思いもかけず「森林浴ツアー」に参加させて頂くことができ、誠にありがとうございました。翌日の新聞にツアーで案内していただいた獅子ヶ鼻湿原の出壺の伏流水が環境省名水百選に選ばれた記事があり、森林管理署の皆様が日頃森林整備に邁進している努力の賜と存じました。誠にありがとうございました。私は森林の散策は何十年ぶりでしたので、皆様にご迷惑をおかけするのではと出発のときは不安もありましたが、別世界にタイムスリップしたような美しい森林、巨木あがりこ大王をはじめ、三百年も生き続けているブナ林の力強さに私はほとんど元気をもらい、清々しい気持ちになりました。倉敷へ帰り、今もその時の余韻が残っています。森林の美しさもありましたが、私の心にもう一つ忘れないのが、職員の皆様のことです。皆様には大変お疲れのことだったと思いますが、最初から最後まで穏やかで笑顔が変わらずサポートしていただいたことです。このことにも感銘を受け、どうしてもお礼を申し上げたくペンを執らせていただきました。管理署の皆様、ほんとうにありがとうございました。

秋田森林管理署

企業による森林づくり
「ニッセイ岩見の森」



新緑のブナ林を満喫した参加者の皆さん

六月八日（日）、当署管内の秋田市河辺の岩見山国有林において、東北森林管理局と（財）ニッセイ緑の財団との分取造林契約による「ニッセイ岩見の森（三・三三ha）」の植樹活動（記念植樹）が、ニッセイの森友の会の会員など五十八名の参加の下で行われました。

なお、当該植樹活動は、十五日に実施予定の「全国植樹祭」の大会テーマである「手をつなごう森」と水と私たち」の主旨も踏まえて、水源地域でのプレ植樹祭として行われました。

当日は、晴天に恵まれ、親子連

れ、女性の参加が多かったこともあって、参加者は、和やかで、華やかで、霧囲気の中で心地よい汗をかきながら、地元樹種であるミズナラの苗木約五百本を一本一本丁寧に植え付けました。

植樹後には、子供たちから「大きくならねば、もう一度見に来たい」との声も聞かれ、植樹したことの達成感とともに、森林の大切さを学び、自然にふれあえた充実の一日となったようでした。

また、当日の植樹の様子は、企業の地球環境保全活動としてマスコミに取り上げられテレビ放映されました。

なお、当署管内では、平成五年にも秋田市仁別で当該財団との分取造林契約による同様の植樹活動が行われており、今回が二箇所目となりましたが、当署では、今後ともこうした企業による森づくりに対する支援協力を押し進めていきたいと考えています。



記念植樹へ参加された会員の皆さん

我が署の 隠れた名所

山形森林管理署最上支署

よ ぞう ぬま 「与蔵沼」



(見所の概要)

鮭川村の大芦沢流域の西端に、ブナの天然林に囲まれた「与蔵沼」と呼ばれる沼があります。昔、炭焼きをしていた与蔵という男が大蛇になり、今もこの沼に住んでいると言い伝えられ、神秘的な景観を有しています。森林浴の場として親しまれ、新緑から紅葉とおすすめの場所です。

周辺には、モリアオガエルの沼や、落差およそ130mもある「湯沢の滝」をはじめとして、「白猿の滝」、「大滝」といった滝群が「まほろしの滝」と言われ、見所が満載の名所です

交通アクセス

羽根沢登山口と大芦沢登山口からのルートがあるが、後者はかなり体力を要する。羽根沢登山口までは、新庄市から国道458号線、県道315号線、羽根沢林道を通って約20km、車で約50分。登山口から鮭川村が整備している歩道を通って、徒歩片道約2時間。



お問い合わせ先

〒999-5312 山形県最上郡真室川町大字新町字下荒川200-11
電話番号：050-3160-5855 FAX：0233-62-2706